

## 日本の船絵馬——北前船

舟 沢 茂 樹

船絵馬に魅せられた三人の日本海海運史の研究者が中心になって、我国で最初の船絵馬写真集を出版した。編者の刀禰勇太郎（福井県）・牧野隆信（石川県）・西窪頭山（新潟県）三氏はこれまでも北前船や船絵馬の研究ですぐれた業績を発表している。本書では、上記三人のほか山形・青森両県から一名づつと北海道からも二名が執筆陣に加わり、越前・若狭をはじめとした日本海沿岸十一ヶ国の船絵馬百七十点を紹介し、それに船絵馬に関する詳細な解説をおこなっている。

越前・若狭を分担した刀禰氏は現在武生市王子保中学校長の職にあるが、多忙な公務のかたわら研究にも余念のない篤学者である。昨年『越前・若狭の船絵馬』を私家版として出版されたが、船絵馬の研究に着手したのが昭和四十二年というから十年にもおよぶ研究成果が本書中に凝縮してい

ることになる。

刀禰氏はこれまでに若越の漁村を精査して四百二十七点の船絵馬を発見されたが、本書中では特に注目すべき四十点を紹介している。

氏の研究によると福井県下の船絵馬は越前に多く、若狭に少ないという。（越前三百九十七例、若狭三十例）それは、若狭に船が少ないからでなく、遠洋航路の船員が越前出身者に多かったからであった。船絵馬が船主よりもむしろ船員達によって航海の祈願をこめて神社に奉納されたものとなれば、それは当然のことかもしれない。刀禰氏の研究の一端にふれたにすぎないが、本書からは若越の海運史やそこに生きた人々の生きざまについて多くのことをひきだすことができそうである。

若越の船絵馬の紹介にかたよりすぎたが、本書はひろく日本海海運史の研究にも裨益するものと信じている。

〔A4判・三三〇頁・九八〇〇円〕

柏書房・昭和五二年三月刊〕

（舟沢記）